

## サビエル生誕五百年



藤屋侃士  
(下松市幸ヶ丘)

312

## 世界遺産グレイシャー湾

（アラスカクルーズ⑧）

前々回紹介したヤクトタット湾から南東約三百キロのところにあるグレイシャー湾。湾一帯はグレイシャー・ベイ国立公園とされ、一九九二年、アラスカで唯一の世界遺産に登録された。グレイシャーとはこの周辺に住む先住民のインディアン、クリンギットの言葉で「巨大な氷山」という意味である。

アラスカの先住民は二百四十幅に及んだという。

言葉によってインディアン、エスキモー、アリュートの三つに分けられる。現在のアラスカの人口は約七十万人だが、これらの先住民は一六%を占める。

世界遺産のグレイシャー・ベイは自然環境を保護するため、湾内には一日に二隻の客船しか入ることができない。

私たちが乗ったサファイア・プリンセス号は、アラスカの内陸部に住むクリンギットのほか、アラスカの内陸部に住むアサバスカン、南東の島々に住むハイダ、北太平洋沿岸に住むティムシャンと、住む地域によって四つの種族に分けられる。グレイシャー・ベイ周辺に住むクリンギット族は赤、黒、緑色を特徴とする大きなトーテムポールの文化を持つ

イの入り口に着いたのは翌日の午前十時半。

そこからゆづくりと多くの人が十四階のビュッフェで食べる。

グレイシャー・ベイは氷河だけでなく、イルカ、鯨、クマなど百種類以上の動物が生息

しており、展望のいい十四階で食事を見たが、多めの人がカメラだけでなく望遠鏡を持つていて、船は夜に八時半に

グレイシャー・ベイを出港し、湾内には十時間も滞在したが、残念ながら動物はほとんど見ることはできなかつた。

海を指さし、大声で「アッ!!」といえばすぐ周囲の人もそちらを向く。しかしそれは崩落してできた氷塊だつた。結局、イルカのヒレを見ただけだつたが、それもカメラに収める

こともできなかつた。

私は動物たちよりもここに何千年もの間、住み続けているインデ

イアンに関心がある。

インディアンはグレ

イシャー・ベイ一帯に

住むクリンギットのほ

うに、ベーリング海峡を越えてアラスカにや

つて来たインディアン、エスキモーは何千

年もここで生活して來

たが、この百年の間に彼らの生活様式は西洋化され、変化したと写

真家の星野道夫さんは書いている。

グローバル化され、固有の文化が地上から

消えるのは寂しい。

人間のしあわせとは

何だろうか。



グレイシャー・ベイ最深部のマージェリー氷河

展望のいい

展望デッキ

二十一なし

しかしほんどの人は展望デッキから氷河を見る

十四階で食

事

ら動物たち

を見るため

である。

多くの人がカ

メラだけ

で食

り

る。

船は夜に

八時半に

到着する。